日本ラッド株式会社

第43期(2014年3月期)　第2四半期決算説明会資料

日本ラッドは、1971年、PC同士をネットワークでつなぐことを誰も考えていなかった時代に、「異機種間接続システム開発専門会社」としてスタートいたしました。
社名のRADとは、Research And Developmentの頭文字で、最先端技術の開発をはじめ、常に新しい分野に果敢にチャレンジし、未来を切り開こうとする当社の精神を表しています。

2013年11月19日

日本ラッド株式会社

会社概要(第43期第2四半期)

- 日本ラッド株式会社
  - 設立：1971年6月7日
  - 上場：1999年11月9日(JASDAQ 4736)
  - 代表者：代表取締役会長 大塚隆一、代表取締役社長 須澤通雅
  - 決算期：3月
  - 資本金：7億7,283万円
  - 発行済株式数：4,505,390株
  - 従業員数：単体：308名、連結：321名(2013年9月末現在)
  - 事業所：本社(東京都港区)、大阪事業所、名古屋事業所、目黒事業所
- グループ会社
  - 株式会社アリーナ・エフエックス(100%)：第1種金融商品取引業(外国為替証拠金取引)
  - 株式会社シアター・テレビジョン(66.4%)：委託放送事業・ネット配信・映像制作

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013All rights reserved.

事業概要(第43期)

- コンピュータシステムに関連する4つの事業の柱

プロダクトマーケティング事業

パッケージ製品の自社開発、販売代理業務、海外製品のローカライズと国内販売

ビジネスソリューション事業

各種業務系システムの受託開発(決済系、金融系、公共系、流通系、物流系など)

システムソリューション事業

ハードウェアを起点としたシステム製品の開発、組込み系システム開発(カーナビ、医療事務端末、医療機関向けシステム、通信・制御システムなど)

ネットワークコンピューティング事業

クラウド事業、データセンター事業

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

事業別トピックス(1)

<プロダクトマーケティング事業>

- セキュリティ製品ラインナップの拡充
  - VECTANT　SDM (ｸﾗｳﾄﾞ型MDMｻｰﾋﾞｽ)
  - タイガーチームサービス　(ｼｽﾃﾑ脆弱性診断)
- マルチパネルディスプレイの販売好調
  - 政府関連施設、電力会社、警察機関、放送局などへ納入
  - プロフェッショナル4Kディスプレイ(タッチパネル、3D対応)
- BIソリューション
  - BI&CPM製品「BOARD」
  - キーワード「Big Data」

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

事業別トピックス(2)

＜ビジネスソリューション事業＞

- ビッグデータ事業部新設
- 大阪・名古屋エリアの受注が好調
- 新しいパッケージソリューションの増強
  - VTIGER (オープンソースCRM)
  - データマイニングツール「ＳＰＳＳ」
- ネットワークトラフィックの可視化製品「NIRVANA Rapps」の強化

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

事業別トピックス(3)

＜システムソリューション事業＞

- メディカル関連製品
  - 臨床向けソリューション「医療ｸﾗｳﾄﾞ症例割付」の販売開始

- 緊急車両向けシステム
  - 緊急車両向け車載情報端末の受注

- 原子炉内調査用水上ロボットの映像システムを受注

＜ クラウド・データセンター事業＞

- 他社SaaS製品向けプラットフォーム提供開始

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

第43期(2014年3月期) 第2四半期決算の概要

上半期(2013年4~9月)の業績および決算状況についてご説明します。

※すべて連結数値でのご説明になります。

2014年3月期 第2四半期 業績サマリー

P/L (百万円)	2013.3期 第2四半期 (12.4～12.9)	2014.3期 第2四半期 (13.4～13.9)	前年比	
			増減額	前年同期比
売上高	1,662	1,554	-108	-6%
EBITDA*	△90	△73	+17	–
営業利益	△259	△198	+61	–
経常利益	△263	△202	+61	–
当期純利益	△194	△213	-19	–

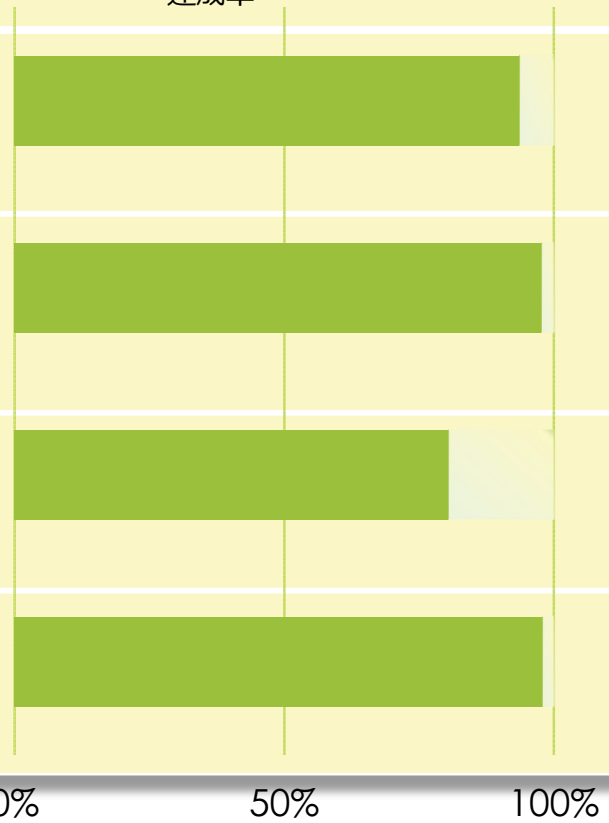
* EBITDA･･･営業利益 ＋ 減価償却費

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期 第2四半期　セグメント別状況

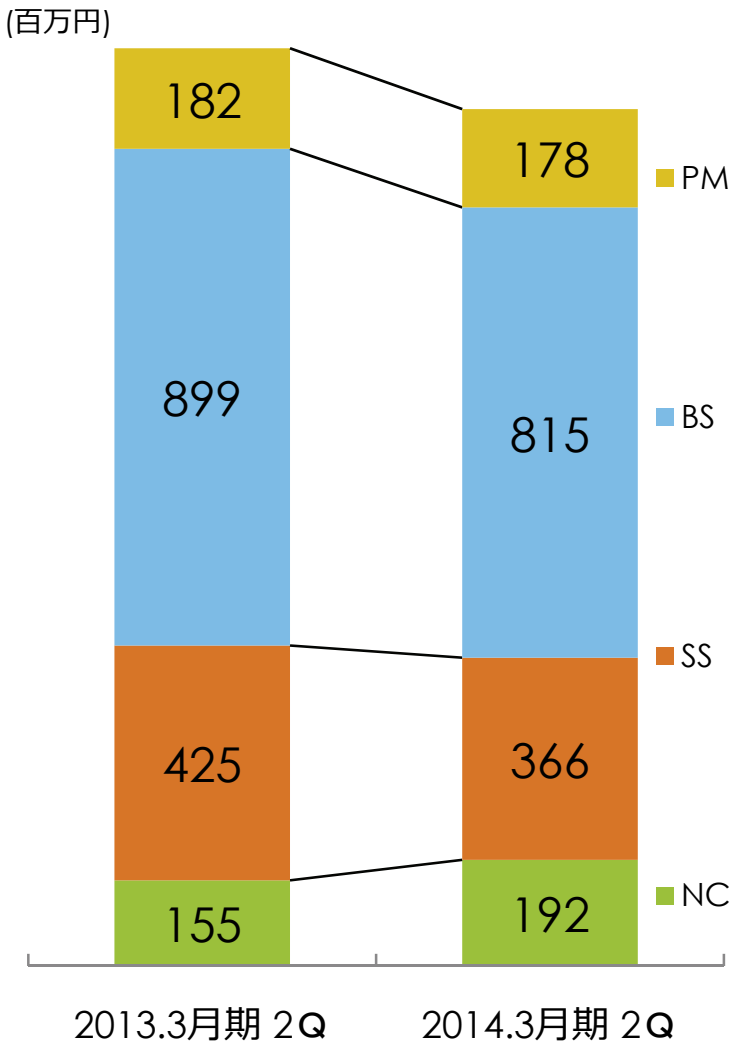
◆上半期の売上高は概ね計画どおり

ｾｸﾞﾒﾝﾄ別 売上高 （百万円）	上半期達成状況		通期計画
	実績	達成率	
ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	178	94%	443
ﾋﾞｼﾞﾈｽ ｿﾘｭｰｼｮﾝ	815	98%	1,936
ｼｽﾃﾑ ｿﾘｭｰｼｮﾝ	366	81%	1,294
ﾈｯﾄﾜｰｸ	192	98%	352



Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期第2四半期　セグメント別売上高



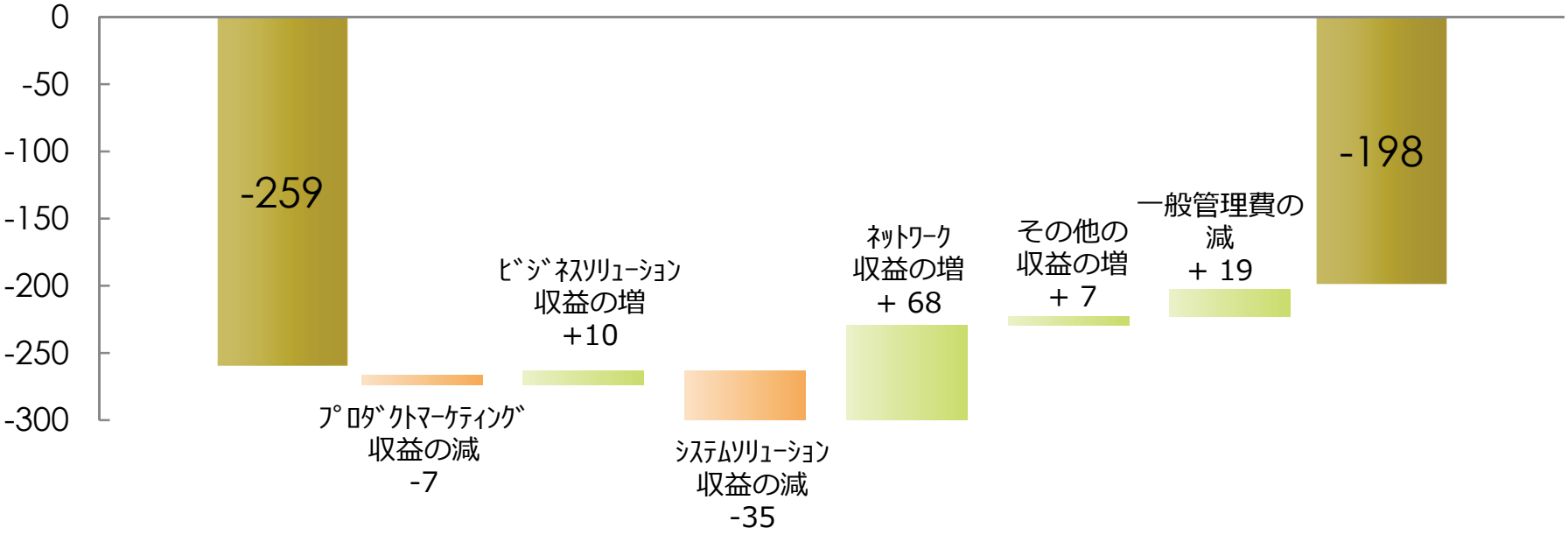
- **プロダクトマーケティング**
  - BIツール、ｾｷｭﾘﾃｨ製品の販売堅調
  - 大型マルチディスプレイ受注は堅調
- **ビジネスソリューション**
  - 西日本の売上増
  - システム受託開発の受注増加
- **システムソリューション**
  - 医事システムの受注増加
  - 組込系ｿﾌﾄﾗｲｾﾝｽﾋﾞｼﾞﾈｽの進捗遅れ
- **ネットワーク**
  - ﾃﾞｰﾀｾﾝﾀｰ売上は堅調

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期第2四半期　営業損益の状況(前年同期比)

◆営業損失は圧縮

（百万円）



2013.3月期 2Q

2014.3月期 2Q

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期第2四半期 連結CFサマリー

◆現金等残高は期首と同等

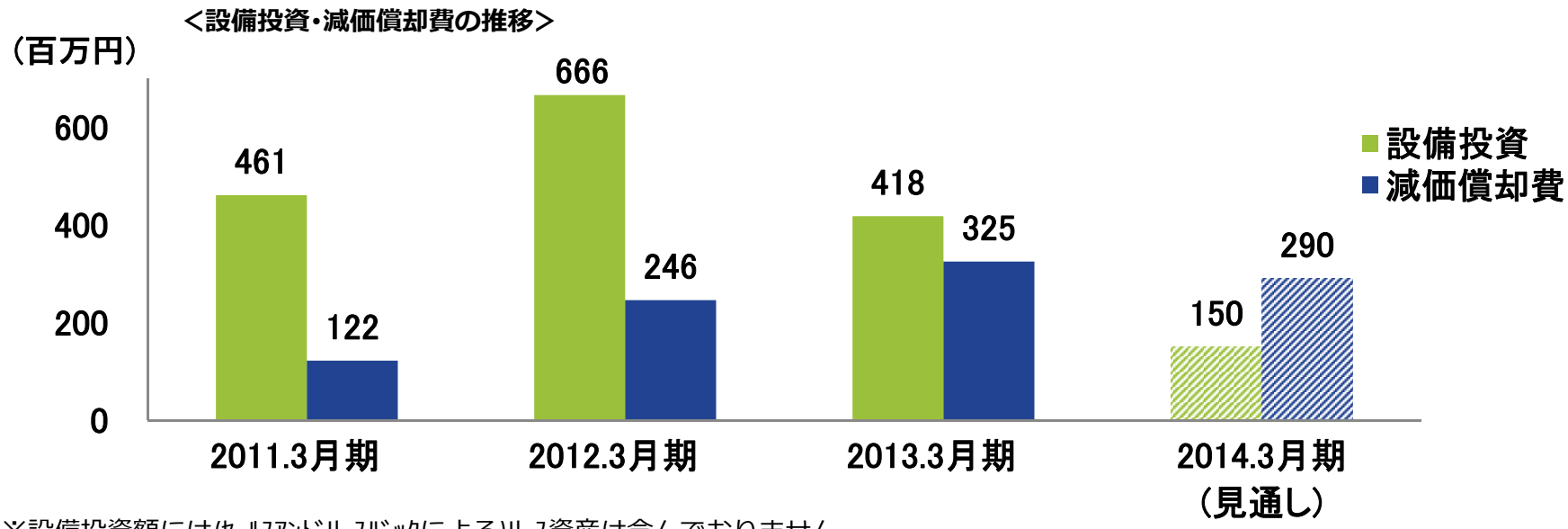
（百万円）	2013.3期 第2四半期（12.4～12.9）	2014.3期第2四半期（13.4～13.9）	前年同期比	
			増減額	前年同期比
営業CF	99	63	-36	63%
投資CF	95	53	-42	56%
財務CF	△329	△98	+231	–
現金等増減	△133	19	+152	–
現金等残高	938	508	-430	54%

うち、設備資金
5億円

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期第2四半期 設備投資・減価償却費

（百万円）	2013.3期第2四半期（12.4～12.9）	2014.3期第2四半期（13.4～13.9）	前年同期比	
			増減額	前年同期比
設備投資	334	57	-277	17%
減価償却費	169	125	-44	73%



※設備投資額には(ｾｰﾙｽｱﾝﾄﾞﾘｰｽﾊﾞｯｸによる)ﾘｰｽ資産は含んでおりません。

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

2014年3月期 連結決算の見通し

連結 P/L (百万円)	2014.3期				
	第2四半期			通期計画	対前期増減額
	業績予想	実績	差異		
売上高	1,682	**1,554**	-128	**4,025**	+272
営業利益	△172	**△198**	-26	**39**	+105
経常利益	△169	**△202**	-33	**39**	+103
当期純利益	△173	**△213**	-40	**4**	+42

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

経営課題、および今後に向けた方針

現在抱える経営課題、および今後の戦略・個別戦術・将来に向けた方針についてご説明します。

経営課題と対策

- クラウド事業の早期黒字化

- ソフトウェア受託開発事業の採算性改善
  - 設計・仕様決定工程での技術者レベル向上
  - ビジネスパートナーの確保

- ハードウェア事業の収益多角化 (少ない品目に依存し過ぎているリスク)
  - 組み込みソフトウェア・ライブラリのライセンスビジネス化
  - 製品技術転用による他業種への展開

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

基本戦略

- 受託開発中心から、サービス指向の商材比率を増やす
  - 案件ベースの収益から、ストック比率を上げ収益安定化を目指す
- ハードからソフト、運用技術まで幅広いノウハウを持つ点を活かす
- 多様な事業を手がける中で、チャンスのある事業分野への選択と集中
  - 多くの事業を手がけてきたことが結果的にリスク分散になっている一面もある
  - 多くの種を蒔き、芽が出た分野には集中的に投資する

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

攻めの施策

- 新技術適応
  - 「4つのITメガトレンド」のうち、クラウド、ビッグデータ、セキュリティに注力
- 海外展開
  - 自動車関連モジュールなどでグローバルな市場に向けた製品の展開(実績ができた→徹底した製品改良による更なる展開)
  - 海外製品も良い物は積極導入
- 強みのある技術の転用による新たな業界へのアプローチ
- 既存製品については徹底した競合調査、シェア向上策、利益率改善など緻密で地道な努力も継続
- M&A、LBOなどは機会に応じて慎重に対応

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

守りの施策

- 品質の向上
  - 技術者全体のレベルアップ
  - ベテラン社員から全社への技能伝授の仕組み化
    - プロマネ向けには、工程管理能力、見積積算能力、品質検査・試験能力の向上についての社内勉強会を定期開催中
    - 営業向けには、営業ノウハウ、資料作成能力向上についての社内勉強会を定期開催中
- 品質トラブルの抑止
  - 社内外における品質トラブルのケーススタディの強化と事例共有
  - ノウハウの共有
- コスト削減
  - 人材については迅速な配置転換による適材適所の徹底
  - 調達方法や設計の改善による仕入れコスト削減
  - 製造方法のセミパッケージ化による納期短縮、コスト削減

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

グループ会社について

- 株式会社シアター・テレビジョン

  概要
  - 設立：1995年11月22日(2009年2月に連結子会社化)
  - 資本金：6,056万円
  - 代表取締役 ：大塚隆一、濱田麻記子
  - 所在地：東京都港区虎ノ門

- 株式会社アリーナ・エフエックス

  概要
  - 設立：2002年7月1日(2010年11月に連結子会社化)
  - 資本金：9,000万円
  - 代表取締役 ：濱田麻記子
  - 所在地：東京都港区虎ノ門
  - 登録：関東財務局長(金商)245号

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

株式会社シアター・テレビジョン

- 業務内容
  - 委託放送事業者(スカパー! Ch.262→スカパー！HD Ch.547)

- 市場環境
  - TV離れによりネット動画へのシフト中。メディア全般が苦戦する中、特にCS放送事業は苦戦。独自性の強い局が生き残り。
  - 地デジ化によりBSへシフトする中、124/128系CS各社は苦戦中。

- 経営課題と施策
  - 収益強化⇒黒字化目途(単月黒字化は達成)
    - 提携先企業への放映枠提供
    - 教育、言論のハイクオリティコンテンツの製作
    - 映像受託制作事業の拡大 (大手建設会社、大手SI会社ほか)

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.

株式会社アリーナ・エフエックス

- 業務内容
  - FX(外国為替証拠金取引)専業
- 市場環境
  - FXの規制強化により業界全体が縮小傾向。FXはシステム産業であり、システム開発力の強いところに優位性あり。
- 経営課題と施策
  - FXCM、OCBCのカバー先として事業再開
  - 海外有力サービスの国内導入に向けて準備中

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013All rights reserved.

本資料およびIRに関するお問い合わせ

- 日本ラッド株式会社 経営企画室

資料に関してのお問い合わせ先
経営企画室　TEL03-5574-7801

http://www.nippon-rad.co.jp/

本資料は、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、
その情報の正確性・完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更することがあります。

日本ラッド公式Facebook

Copyright(C) Nippon RAD Inc 2013 All rights reserved.